

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*元東京天文台測光部のマイクロフォトメーターの里帰りーその1ー

1957年7月1日～1958年12月31日、国際地球観測年(International Geophysical Year、略称:IGY)という事業が国際的な協力で行われ、オーロラ、大気光(夜光)、宇宙線、地磁気、氷河、重力、電離層、経度・緯度決定、気象学、海洋学、地震学、太陽活動の12項目の観測が行われた。日本もこれに参加し、この中には天文学に関係した事業が多く含まれており、当時の東京天文台にとって大事業であった。当時のソビエト連邦とアメリカ合衆



(写真 1)

国が人工衛星・スプートニク1号とエクスペローラー1号を打ち上げたのは、この国際地球観測年のためであった。この国際地球観測年の主な成果は、バン・アレン帯の発見、中央海嶺、プレート・テクトニクス説の確認作業などであった。

元東京天文台測光部はオーロラ、大気光(夜天光といった)の観測をしており、この国際地球観測年に参加していた。その当時、オーロラのスペクトル解析のため導入されたマイクロフォトメーターがこの世に存在していた。その後、測光部の斎藤馨児氏に師事していた方が、東京天文台が廃棄した測光部のマイクロフォトメーターを譲り受け保管されていたのである。この情報は国立科学博物館の天文担当の洞口氏から得られ、現在の所有者の小関氏から

写真提供を受けた(写真1)。

そこで、国立天文台天文情報センター・アーカイブ室としては、現在の所有者の小関氏が使用する予定もないということなので、譲渡していただくことにした。

マイクロフォトメーターはかなりの重量物なので、重量物輸送業者にその輸送を依頼してあるが、まず第1便として小関氏が保管していた附属品一式が届いたので、その報告をしておきたい。

2012年7月20日 小関高明氏から送られてきたもののリスト

- 1) マイクロフォトメーター用ペンレコ (GALVANOGRAPH HR101) 1個 (写真2)
- 2) 附属品の缶 (中には、FUJI Exciter LAMP 箱入り11個、紙に包まれたもの2個)



写真2 ペンレコ

- 3) チャート CHART No RR24002 13本
- 4) マイクロフォトメーター説明書ファイル(写真3)

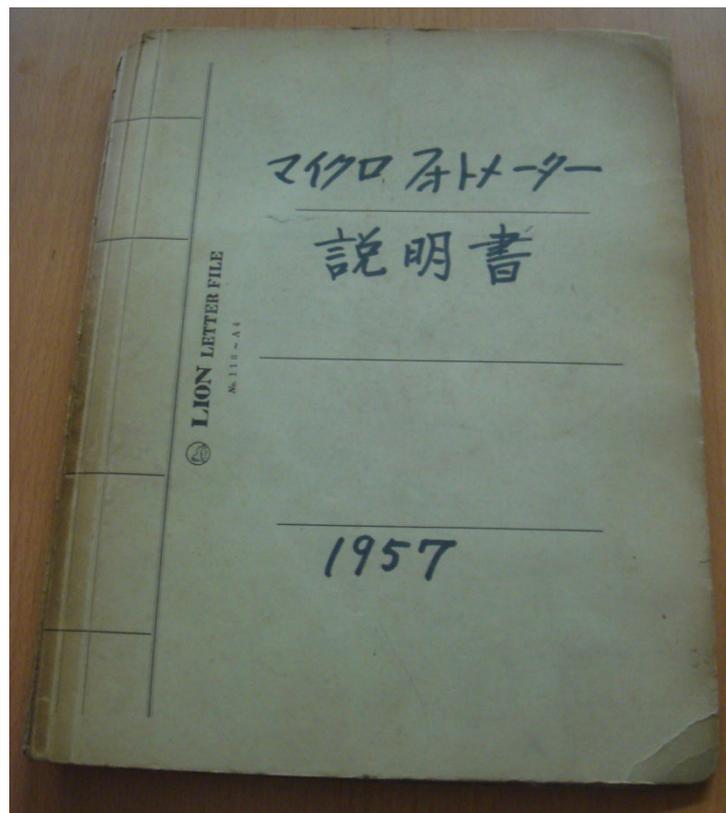


写真3 1957年と書かれたファイル

1. 表紙：マイクロフォトメーター 説明書 1957
2. 株式会社ナルミ商会 成澤重之氏の名刺
3. マイクロフォトメーター見取り図(セクションペーパーに書かれたもの)

4. 顕微鏡の像の撮影装置の写真 1 枚
5. マイクロフォトメーターの概念図 (セクションペーパーに書かれたもの)
6. メモ: 倍率 lever 1:1 と書かれたもの
7. 古畑正秋宛即日配達便封筒 昭和 31 年 5 月 9 日の消印がある。
8. NLM-MIC2 型 顕微鏡撮影装置 説明書
9. NLM-MIC3 型 顕微測光写真装置 説明書
10. 顕微鏡写真撮影用照明装置 エフェクトライト NT-2 型取扱説明書
11. メモ: 非常に簡単な光路図
12. メモ: 電気回路などを議論した時のもの?
13. マイクロフォトメーター見積書 (『650,000 円』)ナルミ商会
14. 古畑正秋氏宛手紙 1 枚
15. マイクロフォトメーターNLM-II型 説明書
16. オーローラ用マイクロフォトメーター IGY オーローラ用と書かれた封筒 1 枚
17. 天文台マイクロフォト回路図 (セクションペーパーに書かれたもの)
18. オーローラ用マイクロフォトメーター 説明及び仕様書 青焼き 3 枚
19. NLM-II型 マイクロフォトメーター 説明書
20. NLM-DM2 菓子部ダブルモノクロメーター説明書
21. B4 サイズの原稿用紙に手書きされた「Microphotometer for Sensitometry 附属 Amplifier 取扱説明書 昭和 32 年 10 月 15 日付」6 枚もの
22. キャラクターリックカーブが焼かれた印画紙 1 枚
23. マイクロフォトメーターの仕様について議論(?)したメモ 1 枚
24. セクションペーパーに書かれた図 (内容不明)
25. 露光量を検討したグラフ (セクションペーパーに書かれたもの)

写真 3 のファイルの中身も興味深いですが、今回はそのリストの紹介にとどめ、マイクロフォトメーターが到着してから記事にしたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp